

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水(1階)		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成27年2月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2274202494-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2274202494-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設周辺の自然環境にも恵まれ、天気の良い日には散歩へ出掛ければ世界遺産である富士山を眺めることができる静かな環境の中にあります。  
運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか職員と話し合い、年間目標を立てて行事企画や一人一人中心のケアに力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は着任1年弱ですが、法人ならびに事業所の方針を実践することに真摯です。最初に着手したことは「どのような事業所でありたいか」を協議することでした。職員からは「活気ある職場へ」「利用者の願いを叶えたい」などが挙がっています。その後、「同じ想いでひとつのことに向かって進みたい」との考えから年度目標「毎日笑顔」を掲げ、「出勤したら利用者全員に声をかけ、その観察を経過記録に記載する」「一対一のケアを重視し、担当者がその利用者の願いを叶える」ことを積み重ね、また偶数月に見直しと改善への機会を設け、年度末には振り返りと次年度の目標を設定し年間計画に明示することで実現を確かなものにしていきます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため年間目標を立て実行できるように年間計画をたて意識を高めるように努めています。	法人理念共有のために「どんな施設にしたいか考えてください」と職員に宿題を出したり、理念実現のために年間目標を設定し事務所に掲示するなど工夫しています。また実践方法として「関わりを持ちましょう」と呼びかけ、曜日を予め決めた散歩が定着しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の際には積極的に挨拶をしております。夏の納涼祭は地域へ回覧版を回していただき地域の方にも参加して頂いています。	毎年恒例のどんど焼きは前任者との引き継ぎがスムーズでなかったため本年度は参加できず、業務継承の重要性を知る出来事となりました。それでも、お汁粉の差し入れがあり、これまでの良好なつきあいが覗えます。	まずは民生委員に運営推進会議への出席を呼びかけ、その後保育園や幼稚園をはじめとする地域へとつながることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり毎回、行事報告を行い意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。	自治会長や民生委員は加わっていませんが、家族を中心に隔月開催しています。会議後はそのまま家族に残ってもらい家族会を併催し、スライドショーで行事や様子を報告しながら、一人ずつの意見を聴いています。	現状のメンバー構成では、ともすると家族会のみとなってしまいう危険があります。系列事業所の管理者や自主防と視野を広げて募ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回足を運んでくださいます。「防災、災害対策では協力が必要なので日頃から交流をしていくことが大事」と市からも助言があり、運営推進会議や事業所の防災訓練へ地域リーダーを呼び込むことを課題としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し身体拘束は守られているが、声掛けに於いては些細なことで拘束の値に近い言葉が聞かれることがあり注意をすると共に勉強会を行っている。また、関わりを持つようにして所在確認を意識するよう努めています。	利用者との関わりを優先することは法人としても強化しており、その取組が本件に係る事柄を向上させると捉えています。落ち着くまで隣に座り、また集中できるものを見つけて出すようにしています。また「何度も繰り返す声を聞き流したり無視することも拘束になる」と指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の会議にて声掛けについて学ぶ機会をもち小さなことから意識付けに努めている。また日々のケアの中で身体観察等を行い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い不明点は具体例を上げて理解していただいた上で契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見を述べやすいように普段より声掛けに努めている。また頂いた意見は職員全員が共有できるように申し送り時や会議等を利用し要望に近づけるように努めています。	家族会は回を重ねるほどにぎっくばらんな集まりとなり、「年間行事予定をもらえるとありがたい」といった要望が自然にでており、速やかな改善に至っています。また事業所の納涼祭では家族が盆踊りを披露してくれることもあり、風通しのよい関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会で職員からの意見や提案を聞く機会や話し合いを設けている。また本部会議での提出用紙に提案事項の欄があり活用できる仕組みがあります。	年2回自己評価をおこない、内一回は個人面談があります。ボランティアの提案をはじめ進言は日常的にあり、また掲示板の制作を任されている者がいたり、行事計画の担当者がいちご狩りを実施しており、ボトムアップの運営がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に応じて勤務体制に無理なく勤められるように対応しております。また自己評価が年2回あり振り返りができる機会を設けてます。他、年に1度社員表彰を実施し向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施しております。また、定例会を利用して事業所内での研修に努めてスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域グループホーム連絡会などに参加しサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っていること、不安に感じていること等アセスメントし入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況、困っていること不安に感じていること、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか話し合うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めて施設での生活が適しているのか話し合い安心して利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味あることが実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が気軽に面会に来られる環境づくりに努め、ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気楽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。	連続テレビ小説が好きで「原作をよみたい」と書店に出向く人や、月に1度自宅に戻ることを希望する家族への側面的な支援があります。来所者には必ず声をかけて会話をもつように努めているとあって、調査当日も面会の家族で賑やかでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできることを把握し職員が間に入り役割を見つけ利用者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで来られたり必要に応じて相談・支援がいつでも、できるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努めています。	暮らしのなかでよく見て、聞くことを通じて言葉かけに留意し、内容は職員ノートで申し送り、また定例会カンファレンスで共有しています。下肢筋力が弱まるほどに「帰れない」との想いが増すのか、自宅を恋しがる利用者には家族と相談しながら添えるよう取り計らっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等であるべく多くの情報収集を行い、日々の関わりの中で、ご本人やご家族様から得た情報は職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノート、毎月の定例会を利用して今の状況を把握し、その時の対応変化に対応できるように周知徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。	カンファレンスでは職員の発言は活発ですが、管理者としては精査への技量に課題を感じています。「認知症の進行や拘縮を防ぎたい」との家族意見や訪問看護師の情報も反映させ、ケアマネージャー(管理者兼務)がモニタリングからプラン作成まで把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、思いや要望に添えるよう個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけ医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。	内科については24時間電話対応可能な協力医に全員が変更しています。専門医は3名がかかりつけ医を続けていますが、いずれにしても受診には管理者が同行し、結果や変調は逐一家族に連絡しています。訪問看護による健康管理も週一あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護があり日常の状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方の報告、相談し医療との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとりスムーズに対応できるように連絡を密にとるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いてはご家族や主治医等と相談しながら職員全員で支援していくように努めています。	契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される利用者もおり、段階に応じて医師の指示を下、家族を交え徐々に職員の受入れ態勢を整えていきたいとしています。予め準備されたものではなく、ケースバイケースです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時研修があるが全ての職員までいきとどいていないため定例会での研修や現場での実践を共に行い身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練等によって指導しています。地域の防災訓練は今後、参加していくよう働きかけています。	本年度は1回に留まりましたが、地震・火災想定として消火、避難訓練をおこなっています。備蓄ならびに夜間想定は未着手として次のステップとしています。本年の反省として来年度は総合防災訓練を含め年3回、年間計画に入れていきます。	防災体制を進め、地域とも防災面で協力し合えることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉かけは、お互いに意識し勉強会等で再確認できるような場を設けています。	たみの里清水のルールとして①呼称は「～さん」、ちゃんとは禁止②職員同士の陰口を言わない③メール、ラインで出勤以外の職員へ情報のやり取りをしない④就業中は携帯電話禁止⑤必ず「笑顔」で率先垂範の挨拶をする⑥事故・ミスは全職員の責任である、と掲げています。	「同じ想いでひとつのことに向かって進みたい」との考えから事業所目標を作ったこともあり、今後は職員間でお互いの言葉遣いや立居振舞いに注意し合えることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定しやすいように、その方に合わせた言葉かけを意識して対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、その日の過ごし方を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような気配り、声掛けをするように心掛けてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じて、食事作りに関わっていただいたり、片付けをしていただいています。	本部献立に従って職員が手造りしていますが、週に一度の“お楽しみ献立”では利用者のリクエストに応じたメニューがあります。自ら下膳や食器の洗い拭きを率先しておこなう人もあり、食事前後は活気づく時です。誕生日は本人の好きなもので、また年2回くらい外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき一人ひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを、ご本人に行っていた後、確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	個々のパターンを把握しており、早めの声かけを旨としています。そのため以前失敗が多かった人も排便リズムを掴み、トイレでの排泄が可能となっており、紙パンツから布パンツへの移行に2名が成功しています。夜間も声かけによるトイレ誘導やパッド交換を細目におこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトの提供と砂糖ではなくオリゴ糖を使用しております。また習慣化している体操を取り入れ予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。	湯は足し湯ですが、浴剤を楽しみとしている人が多くいて、複数種類を準備しています。メーカー品においてもゆずが一番人気のため、かんきつ類を浮かべることもあります。身体状態からシャワー浴対応が2名、一番湯にこだわる人の意向にも応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画を立て一日掛けての外出をし日常では味わえない体験を楽しんで頂きます。	ADLの差が大きくなり全員での外出が難しく、計画とは別に個別で花見やいちご狩りにかけています。行事計画も花鳥園や水族館、初詣と年数回実施しています。事業所周辺の散歩では八幡神社までが定期コースとなり、JR線の家康号を見に出かけたこともあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買物の要望があるときは一緒に買物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、計画を立てて、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で絵や装飾品での季節感を感じられるように努めています。	職員や家族の持ち寄ったフリージア、水仙、桃が咲き誇り、また手すりも毎日次亜塩素酸で吹き上げて感染症対策に余念がありません。職員手作りの大判カレンダーが栄える居間には、定位置を好む人や毎日変わる気持ちに合わせたテーブルの配置がみられます。	家族アンケートに要望が挙がっていますので、整容や清掃の段取りについて改めて見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	ダンス、飾り棚、テレビ、ラジオ、日本人形、家族から届いた紫陽花の鉢植えと、その人の趣を感じることができるものに溢れています。絵画教室の先生だった利用者は水彩画作品やデッサン、何種類もの絵筆を並べていて「説明しましょうか」と話しかけてくださいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水 (2階)		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成27年2月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設周辺の自然環境にも恵まれ、天気の良い日には散歩へ出掛ければ世界遺産である富士山を眺めることができる静かな環境の中にあります。  
運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか職員と話し合い、年間目標を立てて行事企画や一人一人中心のケアに力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は着任1年弱ですが、法人ならびに事業所の方針を実践することに真摯です。最初に着手したことは「どういう事業所でありたいか」を協議することでした。職員からは「活気ある職場へ」「利用者の願いを叶えたい」などが挙がっています。その後、「同じ想いでひとつのことに向かって進みたい」との考えから年度目標「毎日笑顔」を掲げ、「出勤したら利用者全員に声をかけ、その観察を経過記録に記載する」「一対一のケアを重視し、担当者がその利用者の願いを叶える」ことを積み重ね、また偶数月に見直しと改善への機会を設け、年度末には振り返りと次年度の目標を設定し年間計画に明示することで実現を確かなものにしていきます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため年間目標を立て実行できるように年間計画をたて意識を高めるように努めています。	法人理念共有のために「どんな施設にしたいか考えてきてください」と職員に宿題を出したり、理念実現のために年間目標を設定し事務所に掲示するなど工夫しています。また実践方法として「関わりを持ちましょう」と呼びかけ、曜日を予め決めた散歩が定着しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の際には積極的に挨拶をしております。夏の納涼祭は地域へ回覧版を回していただき地域の方にも参加して頂いています。	毎年恒例のどんど焼きは前任者との引き継ぎがスムーズでなかったため本年度は参加できず、業務継承の重要性を知る出来事となりました。それでも、お汁粉の差し入れがあり、これまでの良好なつきあいが覗えます。	まずは民生委員に運営推進会議への出席を呼びかけ、その後保育園や幼稚園をはじめとする地域へとつながることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり毎回、行事報告を行い意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。	自治会長や民生委員は加わっていませんが、家族を中心に隔月開催しています。会議後はそのまま家族に残ってもらい家族会を併催し、スライドショーで行事や様子を報告しながら、一人ずつの意見を聴いています。	現状のメンバー構成では、ともすると家族会のみとなってしまいう危険があります。系列事業所の管理者や自主防と視野を広げて募ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回足を運んでくださいます。「防災、災害対策では協力が必要なので日頃から交流をしていくことが大事」と市からも助言があり、運営推進会議や事業所の防災訓練へ地域リーダーを呼び込むことを課題としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し身体拘束は守られているが、声掛けに於いては些細なことで拘束の値に近い言葉が聞かれることがあり注意をすると共に勉強会を行っている。また、関わりを持つようにして所在確認を意識するよう努めています。	利用者との関わりを優先することは法人としても強化しており、その取組が本件に係る事柄を向上させると捉えています。落ち着くまで隣に座り、また集中できるものを見つけて出すようにしています。また「何度も繰り返す声を聞き流したり無視することも拘束になる」と指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の会議にて声掛けについて学ぶ機会をもち小さなことから意識付けに努めている。また日々のケアの中で身体観察等を行い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い不明点は具体例を上げて理解していただいた上で契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見を述べやすいように普段より声掛けに努めている。また頂いた意見は職員全員が共有できるように申し送り時や会議等を利用し要望に近づけるように努めています。	家族会は回を重ねるほどにぎっくばらんな集まりとなり、「年間行事予定をもらえるとありがたい」といった要望が自然にでており、速やかな改善に至っています。また事業所の納涼祭では家族が盆踊りを披露してくれることもあり、風通しのよい関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会で職員からの意見や提案を聞く機会や話し合いを設けている。また本部会議での提出用紙に提案事項の欄があり活用できる仕組みがあります。	年2回自己評価をおこない、内一回は個人面談があります。ボランティアの提案をはじめ進言は日常的にあり、また掲示板の制作を任されている者がいたり、行事計画の担当者がいちご狩りを実施しており、ボトムアップの運営がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に応じて勤務体制に無理なく勤められるように対応しております。また自己評価が年2回あり振り返りができる機会を設けてます。他、年に1度社員表彰を実施し向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施しております。また、定例会を利用して事業所内での研修に努めてスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域グループホーム連絡会などに参加しサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っていること、不安に感じていること等アセスメントし入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況、困っていること不安に感じていること、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか話し合うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めて施設での生活が適しているのか話し合い安心して利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味あることが実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が気軽に面会に来られる環境づくりに努め、ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気楽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。	連続テレビ小説が好きで「原作をよみたい」と書店に向く人や、月に1度自宅に戻ることを希望する家族への側面的な支援があります。来所者には必ず声をかけて会話をもつように努めているとあって、調査当日も面会の家族で賑やかでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできることを把握し職員が間に入り役割を見つけ利用者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで来られたり必要に応じて相談・支援がいつでも、できるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努めています。	暮らしのなかでよく見て、聞くことを通じて言葉かけに留意し、内容は職員ノートで申し送り、また定例会カンファレンスで共有しています。下肢筋力が弱まるほどに「帰れない」との想いが増すのか、自宅を恋しがる利用者には家族と相談しながら添えるよう取り計らっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、日々の関わりの中で、ご本人やご家族様から得た情報は職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノート、毎月の定例会を利用して今の状況を把握し、その時の対応変化に対応できるように周知徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。	カンファレンスでは職員の発言は活発ですが、管理者としては精査への技量に課題を感じています。「認知症の進行や拘縮を防ぎたい」との家族意見や訪問看護師の情報も反映させ、ケアマネージャー(管理者兼務)がモニタリングからプラン作成まで把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、思いや要望に添えるよう個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけ医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。	内科については24時間電話対応可能な協力医に全員が変更しています。専門医は3名がかかりつけ医を続けていますが、いずれにしても受診には管理者が同行し、結果や変調は逐一家族に連絡しています。訪問看護による健康管理も週一あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護があり日常の状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方の報告、相談し医療との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとりスムーズに対応できるように連絡を密にとるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いてはご家族や主治医等と相談しながら職員全員で支援していくように努めています。	契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される利用者もおり、段階に応じて医師の指示を下、家族を交え徐々に職員の受入れ態勢を整えていきたいとしています。予め準備されたものではなく、ケースバイケースです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時研修があるが全ての職員までいきとどいていないため定例会での研修や現場での実践を共に行い身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練等によって指導しています。地域の防災訓練は今後、参加していくよう働きかけています。	本年度は1回に留まりましたが、地震・火災想定として消火、避難訓練をおこなっています。備蓄ならびに夜間想定は未着手として次のステップとしています。本年の反省として来年度は総合防災訓練を含め年3回、年間計画に入れていきます。	防災体制を進め、地域とも防災面で協力し合えることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉かけは、お互いに意識し勉強会等で再確認できるような場を設けています。	たみの里清水のルールとして①呼称は「～さん」、ちゃんとは禁止②職員同士の陰口を言わない③メール、ラインで出勤以外の職員へ情報のやり取りをしない④就業中は携帯電話禁止⑤必ず「笑顔」で率先垂範の挨拶をする⑥事故・ミスは全職員の責任である、と掲げています。	「同じ想いでひとつのことに向かって進みたい」との考えから事業所目標を作ったこともあり、今後は職員間でお互いの言葉遣いや立居振舞いに注意し合えることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定しやすいように、その方に合わせた言葉かけを意識して対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、その日の過ごし方を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような気配り、声掛けをするように心掛けてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じて、食事作りに関わっていただいたり、片付けをしていただいています。	本部献立に従って職員が手造りしていますが、週に一度の“お楽しみ献立”では利用者のリクエストに応じたメニューがあります。自ら下膳や食器の洗い拭きを率先しておこなう人もあり、食事前後は活気づく時です。誕生日は本人の好きなもので、また年2回くらい外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき一人ひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを、ご本人に行っていた後、確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持に努めています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	個々のパターンを把握しており、早めの声かけを旨としています。そのため以前失敗が多かった人も排便リズムを掴み、トイレでの排泄が可能となっており、紙パンツから布パンツへの移行に2名が成功しています。夜間も声かけによるトイレ誘導やパッド交換を細目におこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトの提供と砂糖ではなくオリゴ糖を使用しております。また習慣化している体操を取り入れ予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。	湯は足し湯ですが、浴剤を楽しみとしている人が多くいて、複数種類を準備しています。メーカー品においてもゆずが一番人気のため、かんきつ類を浮かべることもあります。身体状態からシャワー浴対応が2名、一番湯にこだわる人の意向にも応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画を立て一日掛けての外出をし日常では味わえない体験を楽しんで頂きます。	ADLの差が大きくなり全員での外出が難しく、計画とは別に個別で花見やいちご狩りにかけています。行事計画も花鳥園や水族館、初詣と年数回実施しています。事業所周辺の散歩では八幡神社までが定期コースとなり、JR線の家康号を見に出かけたこともあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買物の要望があるときは一緒に買物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、計画を立てて、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で絵や装飾品での季節感を感じられるように努めています。	職員や家族の持ち寄ったフリージア、水仙、桃が咲き誇り、また手すりも毎日次亜塩素酸で吹き上げて感染症対策に余念がありません。職員手作りの大判カレンダーが栄える居間には、定位置を好む人や毎日変わる気持ちに合わせたテーブルの配置がみられます。	家族アンケートに要望が挙がっていますので、整容や清掃の段取りについて改めて見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	ダンス、飾り棚、テレビ、ラジオ、日本人形、家族から届いた紫陽花の鉢植えと、その人の趣を感じることができるものに溢れています。絵画教室の先生だった利用者は水彩画作品やデッサン、何種類もの絵筆を並べていて「説明しましょうか」と話しかけてくださいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		